ISSN 1882-5370

尚美学園大学芸術情報研究　第36号

Journal of Informatics for Arts, Shobi University No.36

研究ノート｜Research Notes

写真展「笑顔でつながる世界」の一考察
：世界の人々・文化・自然を紹介して

A Study of the Photo Exhibition “the World Connected by Smiles.”
：Focusing on People, Cultures, and Nature Around the World

仲井 勝巳
NAKAI Katsumi

尚美学園大学
芸術情報学部

Shobi University

2023年12月
Dec.2023

尚美学園大学芸術情報研究 第 36 号 研究ノート

写真展「笑顔でつながる世界」の一考察

：世界の人々・文化・自然を紹介して

A Study of the Photo Exhibition “the World Connected by Smiles.”

：Focusing on People, Cultures, and Nature Around the World

仲井　勝巳
NAKAI　Katsumi

[抄 録]

本稿は、筆者による写真展「笑顔でつながる世界」を実施し、参加者のアンケートやインタビュー、そして、振り返りから、次のように整理した。

①参加者が「世界の人々・文化・自然」について、興味や関心を持つ内容であった。
②参加者が「人物の笑顔」に、興味を持つ傾向があった。
③地域社会において、学校教育の美術鑑賞の観点で役立った。
④筆者と参加者が対話することで、テーマに関する思考や理解を深める傾向があった。
⑤人々の生活の様子がわかる写真や動画の展示を取り入れることで、より具体的に伝わる可能性がある。

キーワード
写真展、世界の人々・文化・自然、地域社会、学校教育

[Abstract]

The implementation of the author's photo exhibition “the World Connected with Smiles” was summarized as follows based on participant questionnaires, interviews, and reflections.

① Participants became interested in "people, culture, and nature around the world."
② Participants tended to be interested in “people's smiles.”
③It was useful in the local community from the perspective of art appreciation in school education.
④Dialogue between the author and the participants tended to deepen their thinking and understanding of the theme.
⑤By incorporating photos and video exhibits that show people's daily lives, it is possible to convey the message more concretely.

[keyword]
Photo Exhibition, People・Culture・Nature of the World, Local Communities, School Education

1　はじめに

広く写真展というものは、色々なテーマで、各地の施設、店舗などで、実施されることがある。例えば、杉岡（2023）は、難病の子ども達を対象にした自然体験施設に関する写真展を行った結果、参加者が展示された写真を通して施設や活動状況（難病とたたかう子どもの存在）を知り，そこに参加する子ども達やご家族にとってかけがえのない時間であることも感じたことを明らかにした。池上・立入・峯（2021）は、ブラジルの出稼ぎをテーマにした写真展とシンポジウム、交流コンサートを行った報告書で、自らも「デカセギ」労働者だったブラジル人写真家のマエダ氏が 30 年間に撮りためたモノクロ写真 90 点は、日系ブラジル人の就労や家族生活を生き生きと伝える作品となったことを紹介している。そして、写真展やシンポジウム、交流コンサートというイベントを通して、未来の多文化共生への「種まき」として表現した。西原（2019）は、食文化を伝えるというテーマで、大学生が地元の食文化を盛り上げているレストラン等を対象とし、おいしい空間の魅力を伝えるための写真を一式として展示する写真展を 3 回実施した結果、食文化の魅力を伝えることや学生たちの取組そのものが成功したことを明らかにした。このように、写真展を行うことで、人や文化などを紹介し、写真を見た人々が、それぞれのテーマに対して、思いや新たな気づきを与えることがある。

筆者（私）は世界 50 カ国ほどを旅し、そこでたくさんの人々と出会った。そして、海外で撮影した写真をカフェやイベントで写真展などを実施した経験を持っている。私は今回、初めて美術館の一室を借りて個展を行った。私は世界を旅し、人々は様々な環境、自然、社会の中で生きていることを捉えてきた。笑顔は世界共通だと感じることが多くあった。そこで、地域社会で写真展を実施することで、参加者は世界の人々・文化・自然について、どのような興味・関心を持つのか、実際に撮影した本人を通して、どのような考えや気づきを得るのかを明らかにするため取り組むことにした。そして、社会教育や学校教育での視点で考察することも目的とした。

2　方　法

写真展開催者：筆者本人
　　場　　所：豊中市立市民ギャラリー第 2 展示室で開催した。
　　時　　期：2019 年 8 月に 5 日間実施した。
　　展示方法：A 4 ～A 3 程度の大きさの写真を展示した。

また、壁にプロジェクターで現地の様子が分かる写真を、
スライドショーとして展示した（図１．図２）。

アンケート：参加者の様子を見て、声をかけて取得した。
また、机に置き自由に回答できるようにした。

インタビュー：参加者からの質問を受けたり、無理のない範囲でお話を伺ったりした。

分析方法：アンケート記述（原文）やインタビューを通しての振り返り（7943 文字の記録）、展示写真から分析した。

倫理的配慮：アンケートやインタビューは可能な方にご協力をいただいた。また、写真で撮影した人物に関しては、撮影当時に許可を得ている。

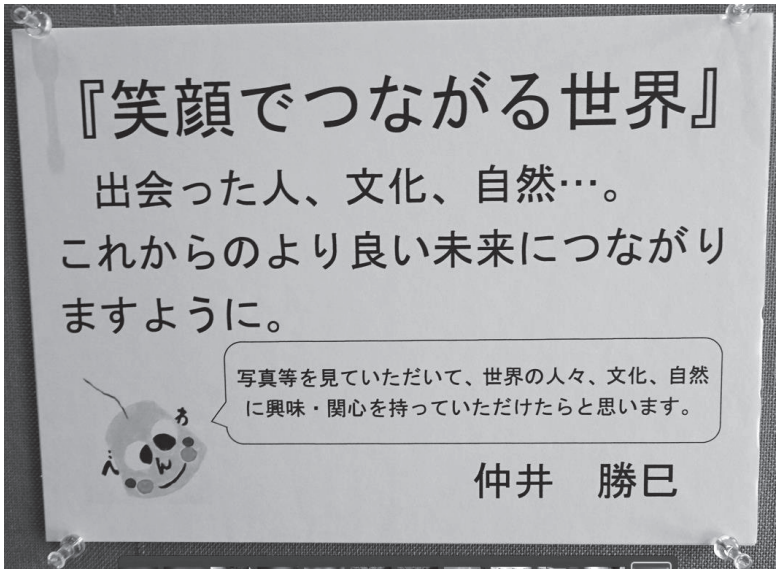

図１．展示したテーマ『笑顔でつながる世界』の紹介文

図２．写真展の様子

３　結果と考察

３．１　写真展５日間の参加者の概要について

５日間の写真展の実施において、日程と参加人数、アンケートの回答者数および回答率について表 1 に整理した。この展示期間において、合計 184 名、アンケートの回答者が 52 名となった。そして、表 2 では、「今回の写真展で現地の人々、文化、自然などに興味・関心を持ったと思いますか？」の回答について、５日間を通して、「とても思う」（22 人）、「思う」（19 人）、「どちらとも言えない」（0 人）、「思わない」（0 人）という結果から、回答した多くの参加者は、実施した写真に関して、興味や関心を持ったことが明らかになった。ただ、第 4 日目の興味・関心に関するアンケートの回答が 0 人であったことにより、他の日と比べ極端に少ないことがわかった。第 4 日目は、週末に該当することもあったが、その因果関係は定かではない。参加人数は、1 日 30～40 人程度で、再度訪れた人も含まれている。また、基本的に筆者は展示室に在朗していたが、休憩時間等において来られた参加者数はカウントをできていないので、全体人数はやや変動するものと考えられる。しかし、この規模の写真展で、180 名程度の参加者、アンケートの回答協力を得ることができた。この概観を整理した上で、それぞれの日においてアンケートやインタビュー、そして、振り返りの記録から考察していく。

表１．日程と参加人数、アンケートの回答者数および回答率について

	参加者数（人）	回答者数（人）	回答率(%)
第1日目	38	20	52.6
第2日目	36	8	22.2
第3日目	45	9	20.0
第4日目	31	0	0.0
第5日目	34	15	44.1
合計	184	52	28.3

表２．アンケート項目「今回の写真展で現地の人々、文化、自然などに興味・関心を持ったと思いますか？」の回答について

	とても思う	思う	どちらとも言えない	思わない
第1日目	7	8	0	0
第2日目	4	2	0	0
第3日目	5	4	0	0
第4日目	0	0	0	0
第5日目	6	5	0	0
合計	22	19	0	0

３．２　アンケートの回答記述について

5 日間の実施した写真展に関するアンケートの記述結果（42 名）を年齢（学年含む）ごとに、次のように整理した。

・ぜんぶきれいなしゃしんでびっくりしました。みたことのないしゃしんでとってもびっくりしました。しゃしんをみてどれもきれいなしゃしんばかりでべんきょうになりました。とってもきれいなしゃしんです。【8 歳】
・ペルーのマチュピチュ遺跡に一度くらしてみたいと興味をもちました。【小学 5 年生】
・写真にうつっている子供が笑顔でうつっていて、その中でも貧しいくらしをおくっているのにもかかわらず、笑顔にしているところに関心を持ちました。いろんな人が笑っている写真を見ているうちに幸せな気分になった。【12 歳】
・どこの国もすばらしい笑顔で写真を見ると、どんなことがあったんだろう？と、とても興味がわきました。私は一度も外国に行ったことがないけどこういった写真などを見ることで、色々なことを知る機会になったなと思いました。自分は写真だけだと物足りないと思ったので、動画などもあればいいかなと思いました。【12 歳】
・自分がみたこともない国でなにをやってるのかなと思いました。色々な文化がわかり、おもしろく興味を持ちました。文化いがいに歴史的いさんがみれたりしてよかったです。【14 歳】
・たくさんの国の人達と交流していくすばらしさ。ここに訪れた時、たくさんの人達が笑っている写真を見て、自分も幸せな気持ちになれました。笑顔は本当に世界共通だと思った。【14 歳】
・写真から伝わる環境のようすや文化の違いがたくさんあったこと。「笑顔」を通して世界の人々とつながることは素敵だと思いました。【15 歳】
・普段あまり関わることのない外国の民族衣装や環境などのいろんなお話を聞いて、各国々の歴史や子供たちの現状などをもっと知りたいなと思いました。また、国際交流の活動をもっと進めていきたいと思ったのでいつか関われたらいいなと思いました。「世界中の笑顔」をモチーフとした写真を見て、私は戦争などでこの笑顔をこわしたくないと強く思いました。なので、もっともっと世界中の笑顔を増やしていくために、例えば、外国にボランティア活動をしにいくなど少しでも協力できたらいいなと思いました。「笑顔は世界共通」というのを写真だけでなくぜひ自分の目で見てみたいです！いろんなお話を聞かせて頂きありがとうございました。【15 歳】
・世界の自分と近い年ごろの子どもの生活。訪れた国の中で文化や暮らしにふれながら、その中でのふとした笑顔や楽しそうな顔をした写真がたくさんあってすごく良い写真でした。【15 歳】
・ペルーのナスカが上からみたやつを、つってたのがすごいなぁとおもいました。【中学生】
・糸電話や折り紙を使うことで文化の共有を感じた。写真に興味がある子供がいっぱいい

ると思った。みんなカメラ目線で笑顔。【29 歳】
・先生が世界のたくさんの国々を旅していて、たくさんの子どもと関わっていることを改めて素敵だなと感じました。国々の文化の違いにも興味をもちました。何より笑顔いっぱいの展示パネルをみることができ、よかったです。ありがとうございました。【28 歳】
・外国！笑顔！人が笑っている顔というのは、とても良いなと思いました！子供の笑顔がどこに行っても見れるようになったらいいなと思いました。自分の世界にふれることができてとても良かったです。【33 歳】
・笑顔は人を笑顔にする。世界を旅する人にあこがれる。今回は笑顔でつながる世界を観ました。世界的に有名な建造物、神秘的な場所を見せて欲しいです。【34 歳】
・糸電話でつながる世界があること。何が興味をひくものであればどこの国の人ともつながれると感じた。笑顔の写真がその人の自然を引き出していると感じた。【35 歳】
・糸電話を現地の人にどう説明したのか？写真の表情がとても生き生きしていた。【37 歳】
・いろいろな文化や生活がある。TV でも見られますが、直接見る生のくらしはまた違うのだなぁと思いました。笑顔がいいですね。【38 歳】
・行ったことのない国の子供達の笑顔が目がキラキラしていて、イキイキと生活していることを物がっており、「知らない文化」をみてみたいなと感じました。素敵な笑顔がたくさんあって、撮影した人の人柄が一緒にうつっているなと感じました。そして、旅したくなりました。【39 歳】
・学校へ通うのが当たり前で生きてきた私達にとって学ぶ場所があるというありがたさを改めて感じました。笑顔いっぱいの子供たちの写真を見てとてもいやされました。【40 歳】
・初ギャラリーおめでとう！これからも色々とファイト！！【43 歳】
・強い表情、目に見いりました。大きな世界を感じました。とても豊かな気持ちになりました。ありがとうございます。【56 歳】
・子供の笑顔。【62 歳】
・笑顔は世界共通ですね。【65 歳】
・子供達の笑顔にいやされました。ありがとうございました。【65 歳】
・子供達の笑顔。昔の日本にも、この様な素敵な顔をした子供達がたくさん居たが最近見なくなったのが淋しい。世界 31 都市を訪れたが、写真を撮られた街には行ったことが無いので、一度訪ねてみたいと思った。【67 歳】
・子供達の笑顔がとても素敵だった。【68 歳】
・人物の表情が私の心をとてもなごませてくれました。写真を見てる私の顔が、笑顔になりました。ありがとうございます。写真から、スキッ、シャキッとした空気感を感じます。【68 歳】
・つくり笑顔でない顔がすばらしい！【72 歳】

・子どもたちの笑顔に特に目の輝きを共有するすばらしさを感じました。世界中の子どもたちを撮り続けてください。活動がすべて（日本の子ども、世界の子ども）に還元されていると感じました。がんばってください。【72歳】
・現地の生活。生活が分かるような写真があれば良い。【72歳】
・文化の違い。テレビで見るのみなので写真で見て良かったです。【73歳】
・子供の笑顔は、世界中に幸福を生みます。平和であれ！【75歳】
・その国の生活の様子、慣習が少し分かりました。子供達の表情もよいです。出来たらマップがあればその国を訪れた経路やルートもわかっていいと思う。【80歳】
・世界の人々、親子、生徒を地場流にみせて下さり、楽しく自分の子供の頃や竹馬の友のこと手作りのことを憶い出させてなつかしい気持。異国の文化を紹介下さり、東洋人外の生活を日本文化、差異、同値性を展示して下さい。【80歳】
・子供たちの笑顔はtwtert![1]　海外を旅されるとすばらしいし羨ましいです。【81歳】
・子供の笑いはどこに行っても素敵。いつまでも笑顔でいてほしい。つまらん事で税金を使う事より、世界の子供に役立つ事を考えるべき。ありがとう。素晴らしい。【83歳】
・子どもとの写真がとてもよい。被写体としてはやはり人にうったえるものがあるのかもしれない。バングラデシュの茶屋のおじさんがとても気にいりました。【85歳】
・子供達の笑顔。【96歳】
・世界の人が糸でんわで遊んでいるのが新鮮でした。笑顔もすてきでしたが、風景などもすてきでした。【社会人】
・子どものえがおと表情。世界の子どものようすが見られてよかった。またいろいろなところに行って、子ども達の表情を伝えて下さい。ありがとうございました。【社会人】
・バングラデシュとかでは日本人（外国人）がめずらしいこと！たまには文化的な事を感じることもいいなと思います。【社会人】
・様々な国の出会いにめぐり、ここの場所とのふれあいを感じた。まだあるものをもっと写真をかざった方がいいと思う。子供たちは糸電話がとても楽しそうで役に立てた。【社会人】

以上、アンケートの記述結果から、「世界の人々」「文化」「自然」に着目して、参加者がどのような考えや気づきを持ったのかを考察していく。「世界の人々」については、参加者は、人物の表情や笑顔（子ども達、親子、人々の目の輝き、糸電話で笑顔になること）に関する記述があることから、世界各国の人々の笑顔やそのようになることについて興味や関心を持つ傾向があった。人々の様子、笑顔の写真（図３．図４）を見ることで心が癒されたり豊かな気持ちになったり、素晴らしいと感じたりするなどの気持ちになることが考えられる。「文化」については、世界遺産（ペルーのマチュピチュ遺跡など）、人々の生活、民族衣装、環境、私が糸電話や折り紙などを紹介することによって日本文化

[1] twtertは、twitter（さえずり）の誤記と思われる。

や懐かしい過去を想起させる記述があることから、世界遺産、人々の文化や環境、他国と自国の文化について、興味や関心を持って鑑賞していたことが推察される。また、日本では見られない文化に興味を持ち、実際に海外に行ってみたいという気持ちになった参加者もいることがわかった。「自然」については、神秘的な場所を見せてほしいこと、風景が素敵であることが記述から、イグアスの滝（アルゼンチン）やカンボジア農村部の風景に関する写真のことだと推測されるが、自然に関しての具体的な内容ではないことがわかった。その他、参加者のアンケート記述で、私が写真展を行ったことに関する感謝や激励の言葉、平和であってほしいという願い、国際理解について興味を持ったこと、現地の生活がわかるような写真や動画などを求めていることもわかった。

図３．学校で糸電話を紹介した様子（バングラデシュ）

図４．チャイ屋のおじさん（バングラデシュ）

３．３　インタビューおよび振り返りについて

アンケートの 5 件法や記述結果だけでは、参加者が実際に思ったこと、感じたことを深めて聞いたり、確認したりすることは困難である。よって、インタビューや実施日ごとに私が振り返りを残した記述（7943 文字の記録）から、写真展で展示した写真を含めて、次のように考察していく。

ある参加者は、ネパールのゴルカ地震やホームステイの話、ヒマラヤ山脈のことを伝えると受け答えの中に参加者の持つ知識と照らし合わしたり、持参した海外に関する本で調べたりすることで深めようとしていた。また、別の参加者は、バングラデシュの写真に興味を持ち、詳しく説明すると大変嬉しそうにし、その国を知ろうとした。近くの糸電話の写真も興味を持ち、どんどんのめり込んでいくように感じた。ある年配の方は、私の撮影の腕に関して高評価をする方もいた。アルゼンチンのサルタの町にある教会の昼と夜の写真（図５）を比べることによって、見方が異なることにも気づいた様子であった。教会が夜にライトアップされると幻想的に見える。同じ場所で撮影し、昼と夜の比較をすることで、興味を持つ傾向があることがわかった。なお、写真の配置に関しては、テーマに沿って人物写真が多いほうが良いと感じた。しかし、参加者の中には、現地の生活を知りたい人もいるので、そのような人が鑑賞した場合は、現地の生活に関しても言葉で捕捉するのが良いと思った。

図５．昼と夜のサルタの教会（アルゼンチン）

ある参加者の女性がモロッコのサハラ砂漠（図６）を見た時に、「今度オーストラリアの砂漠に友達に誘われた経緯があり大変なことはなかったのか？」尋ねられたので、私は

「暑さが大変だった。」と伝えた。また、南米、アフリカの自然、文化、そして子どもたちの写真に大変興味を持って鑑賞していた。私自身の糸電話や折り紙を持っていって交流した話をすると、とても興味深く聞いていた。このことから、写真展や筆者の関わりで、世界の自然に興味を持つことがわかった。

図６．サハラ砂漠（モロッコ）

ある年配の参加者は、昔友人が戦死されたことを大変感情をこめて話される方がいた。私自身、カンボジア農村部の学校建設に参加した話（図７）をすると、その方は昔、そういったことに騙された友人がいることも話された。なかなか厳しい視点を持つ方だと感じた。そして、写真展でどうやって社会貢献をするのかを質問され、「笑顔は世界共通である」ことを回答すると、その考えは甘いというように指摘された。「もっと社会に貢献できること、米をつかんで食べられることを考えないといけない」と話をいただいた。また、最後に「あなたはまだ若いんだから、これからも頑張ってください。」と話された。この写真展を通し、実際に戦争を体験された方と話す機会があり、そのこと自体に私自身が新たな気づき（例えば、社会に貢献することとは？）を得た。確かに笑顔は世界共通であり、その写真を参加者は見ることで、写真展のテーマは達成することが推測される。しかし、「笑顔は共通」というのは、まさに既視感に該当する。その既視感を超えるやり取り、すなわち、「社会貢献とは？」「米をつかんで食べられることとは？」という視点を持つ機会がこの写真展においてやり取りがあり、新たな見方があったということが明らかになった。写真展にて、参加者の考えや思いを、どのように展示者は捉えることができるのだろうか。参加者がどのように考えているかの視点を持って鑑賞しているのかを、展示者は写真展のテーマとは異なる多様な捉え方を持っていることを留めておく必要があるのかもしれない。

図７．農村部の学校建設で出会った少年（カンボジア）

ある中学生グループ（8 名）が 2 時間ほど滞在し、中学校の美術の宿題に取り組んでいた。一人は、バングラデシュのチャイ屋のおっちゃんの写真が一番好き、かっこいいと話した。バングラデシュの女の子がすごく可愛いらしくお化粧をしていると、人物写真をよく見ていた。そして、「なぜ、このような写真を撮るのか？」と聞かれ、「世界の人々、文化や自然を伝えたいこと、特に今回は、笑顔は世界共通であるということを伝えたかったので、人物中心にした。」と伝えると納得したようである。また、その際に、カンボジアの学校建設に関して、昔はポルポト政権時代があり、学識者が大量虐殺され地雷が多く埋められていたことなどを伝えると、カンボジアの内情に関して理解しようとしていた。このことから、学校教育の観点で、中学校美術の芸術鑑賞の視点（例えば、芸術家がどのような思いを持って、作品を作っているのか、何を伝えたいのかといった視点を学ぼうとしていた。）から、この写真展は中学生に対し世界の人々や文化について興味関心を持って取り組ませることができたのではないかと推測される。特に、中学校学習指導要領（平成 29 年告示）の美術における目標で、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とあり、2 項目目の「造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。」と明記されていることから、「鑑賞の幅広い活動」や「表現の意図」「美術や美術文化に対する見方や感じ方」に関して、私が実施した写真展において笑顔が世界共通であることや世界の文化や歴史について紹介しようとしたことを学んだのではないかと考えられる。地域社

会において、この写真展を実施することで、学校教育の美術鑑賞に寄与したのではないかと思われる。（下線部は、筆者が引いた。）

ある年配の女性は、ウユニ塩湖の写真（図８）を見て、塩が広がっていることに驚いていた。サボテンの高さはどれくらいあるのですか？と聞かれ、３～４ｍほどと回答すると、大きいですねと驚いていた。そして、世界中の子ども達の笑顔が、本当に素敵だと話された。このことから、世界の自然や子ども達に興味を持つことがわかった。

図８．ウユニ塩湖（ボリビア）

以上のことから、インタビューや振り返りの記録、そして、写真展で展示した写真を含めて考察したが、これらは主に、写真展のテーマである「笑顔でつながる世界」に関して、参加者が興味や関心を持つ内容が多かった。参加者の年齢層は様々であったが、写真の鑑賞や思考を各々で深めたり、来場者同士で感想を言い合ったり、筆者と対話をして思考を深めたりすることがわかった。これらのことは、先行研究で挙げた、杉岡（2023）や池上・立入・峯（2021）、西原（2019）が、それぞれの写真展でテーマを設定し、人々に紹介し、思いや気づきを与えた事例と同様に、本研究でもテーマを設定し、写真展を行い、アンケートやインタビュー、振り返りの記述を基に取り組んだ事例を紹介したという位置づけである。

４　まとめと今後の課題

本稿は、筆者による写真展「笑顔でつながる世界」を実施し、参加者のアンケートやインタビュー、振り返りから、次のように整理した。

①参加者が「世界の人々・文化・自然」について、興味や関心を持つ内容であった。
②参加者が「人物の笑顔」に、興味を持つ傾向があった。
③地域社会において、学校教育の美術鑑賞の観点で役立った。
④筆者と参加者が対話することで、テーマに関する思考や理解を深める傾向があった。
⑤人々の生活の様子がわかる写真や動画の展示を取り入れることで、より具体的に伝わる可能性がある。

筆者は世界各地を訪れて、その地域の人々と交流してきた。2020 年度以降の新型コロナウイルスによるパンデミックの影響、紛争等の問題も世界各地で課題としてあるが、今後も可能なら旅をして、世界の人々、文化、自然に触れたいと考えている。今回、市民ギャラリーで写真展を初めて実施したので、次回以降に写真展をする場合は、本事例の反省（動画や現地の様子がわかる写真などの紹介を工夫するなど）を活かしたり、テーマの再設定も検討したり、何を伝えたいのかを明確にして取り組んでいきたい。

附記

本稿は、2019 年 11 月 30 日、日本理科教育学会令和元年度近畿支部大会(和歌山大会) で発表したテーマ「写真展「笑顔でつながる世界」の考察～世界の人々・文化・自然への興味・関心に着目して～」の内容を基に、大幅に加筆修正したものである。

引用・参考文献

池上重弘・立入正之・峯郁郎（2021）「文化芸術イベントと多文化共生―「デカセギ　ブラジル」写真展、シンポジウム、交流コンサートの報告―」，静岡文化芸術大学研究紀要，21，113-120.
文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示)』(2023 年 9 月 20 日確認）
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf
文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示)』(2023 年 9 月 20 日確認）
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf
西原麻里（2019）「＜調査報告・実践報告＞「食文化」を伝えるための写真展:「生活スタジオ写真部」の取り組みについてのケーススタディ」，愛知学泉大学紀要，1（2)，187-194.
杉岡品子（2023）「難病の子どもの医療ケア付き自然体験施設「そらぷちキッズキャンプ」の写真展の開催報告」，北翔大学北方圏学術情報センター年報，14，27-33.